

中小企業診断士を対象にした 生成AI活用実態レポート

はじめに

企業の収益拡大をサポートする中小企業診断士事務所「ハッシュタグ」（東京都、代表：居戸 和由貴）は、2023年12月、中小企業診断士の方124名を対象に、生成AI（ChatGPT等）の使用実態についてアンケート調査を行いました。

[調査概要]

調査名：中小企業診断士を対象とした生成AIに関する使用実態調査

調査期間：2023年12月1日～12月19日

調査方法：Googleフォームによるアンケート調査

対象者条件：中小企業診断士

有効回答数：124名

調査機関：ハッシュタグ調べ

利用条件

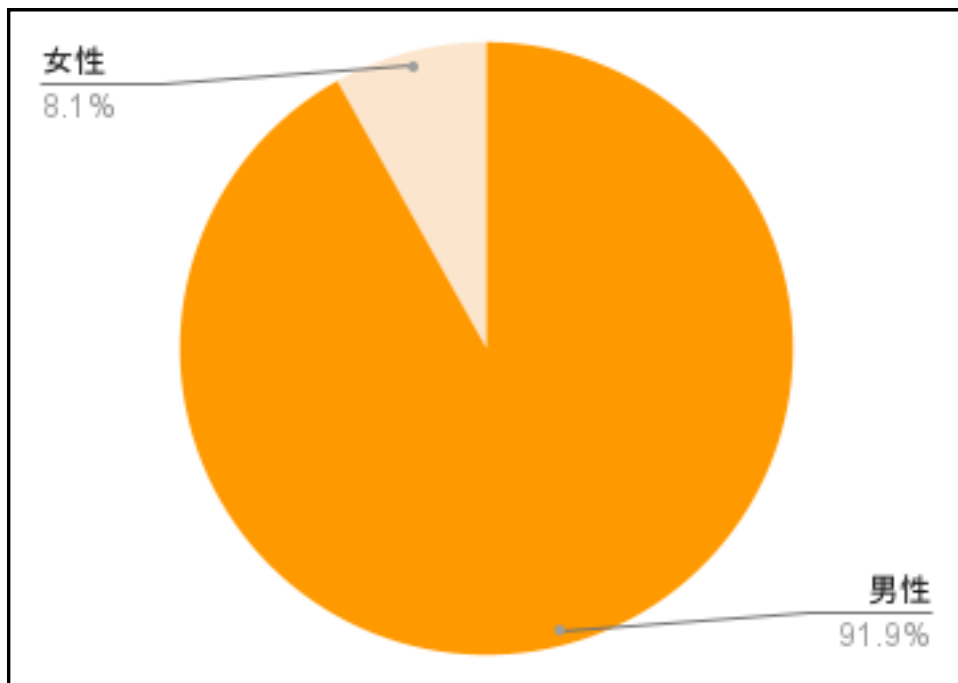
- 1、情報の出典元として「ハッシュタグ」と明記ください。
- 2、ウェブサイトで引用する場合は、出典元に下記リンクを設置してください。

URL：<https://hashtag-jp.com/>

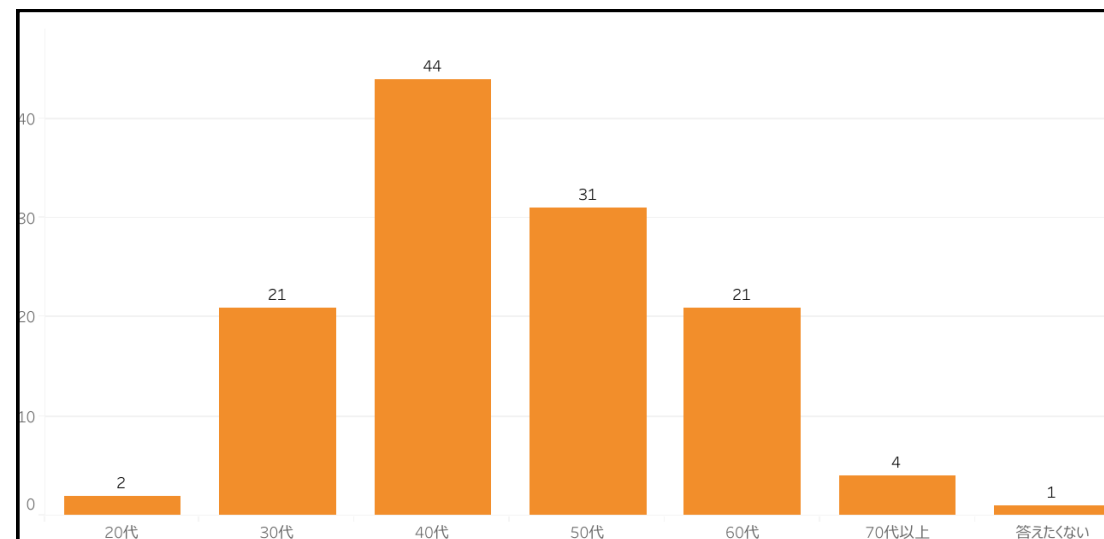
本レポートでは、中小企業診断士がどのように生成AIに向き合い、活用しているかについての実態をグラフィカルに示します。このようなレポートは他に類がなく、中小企業診断士ひいては他の士業の方にとっても有益な洞察を含んでいます。

回答者の属性

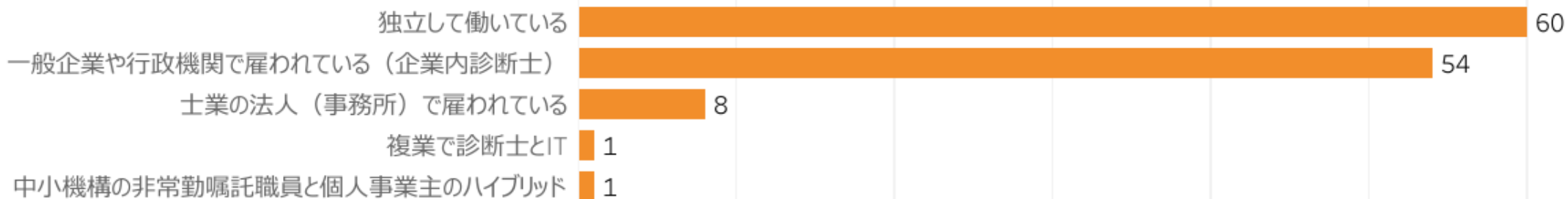
男女比



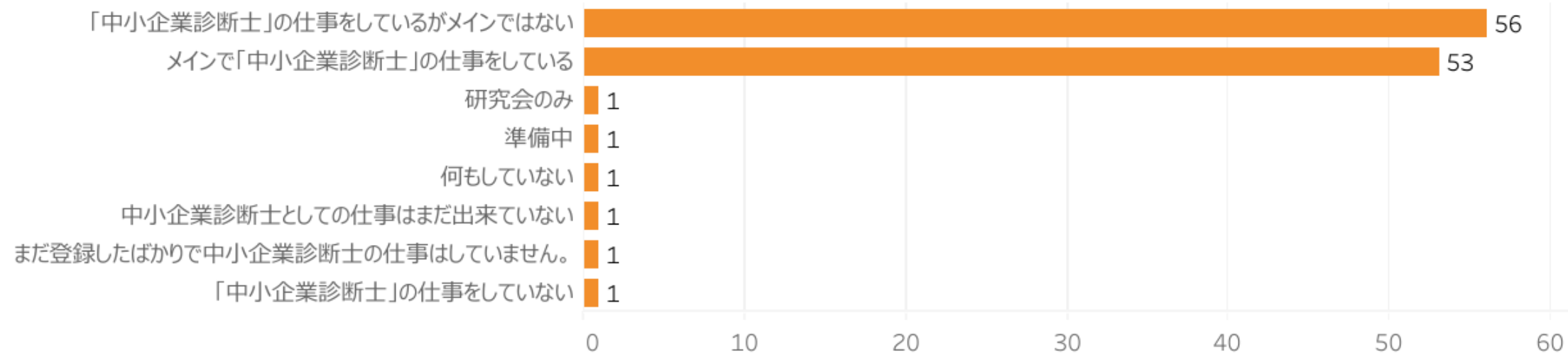
年齢層



中小企業診断士としての就業形態



中小企業診断士としての仕事状況



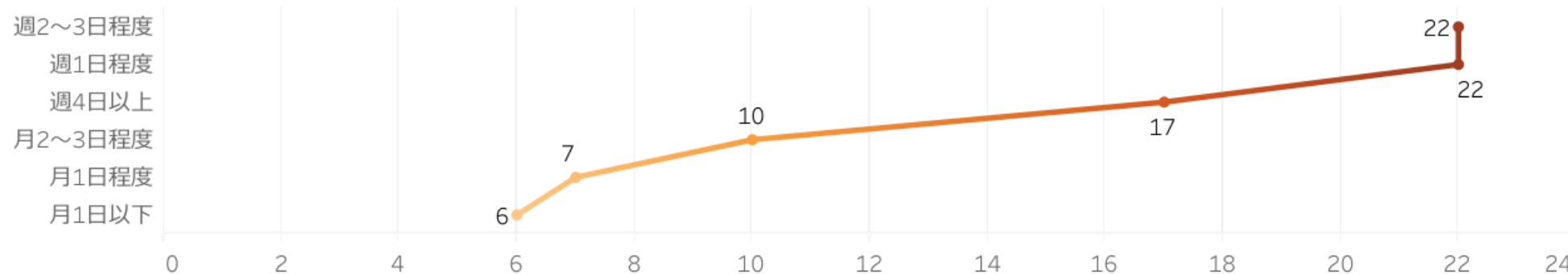
生成AIについて

今回の調査で回答を求めた中小企業診断士のうち約70%が仕事で生成AI（ChatGPT）を使用することがあると答えました。このことから生成AI（ChatGPT）等は中小企業診断士にとって、活用すべきかという議論ではなく、どのように活用すべきかというフェーズにあるということが明らかです。

生成AI（ChatGPT等）の使用状況

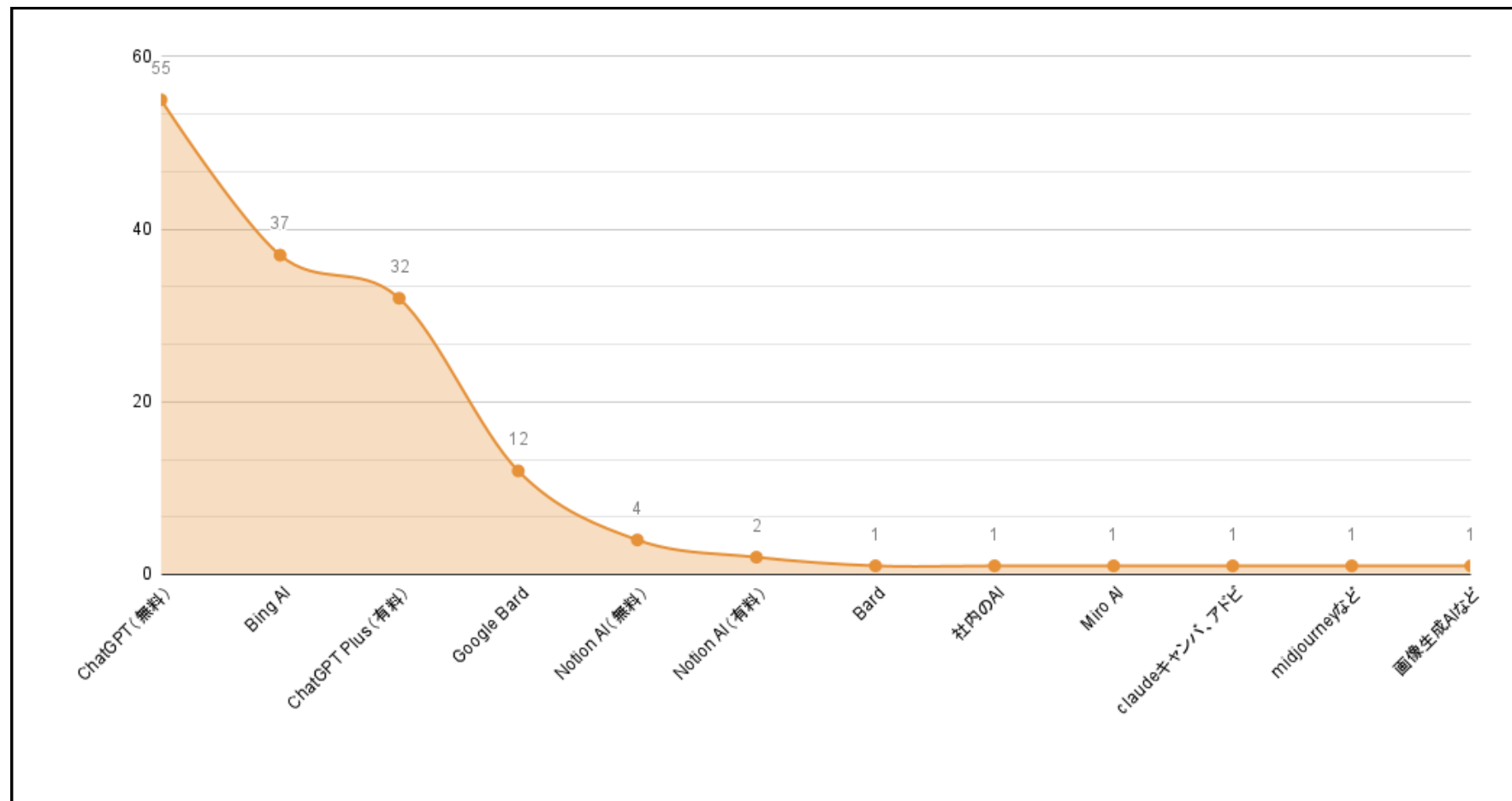
仕事で使うことがある	81
仕事で使いたいと思うが、できていない	27
知っているが、仕事で使おうと思わない	4
仕事で使ったことがあるが止めた	3
知らない	1

生成AIを仕事で使用する頻度



ChatGPTに課金しているか否かについて、回答は二分されています。当然、高度なChatGPTの使用には課金が必須であり、無料版でChatGPTを活用している中小企業診断士は機会損失を被っている可能性が高いと考えられます。

使用している生成AIの種類



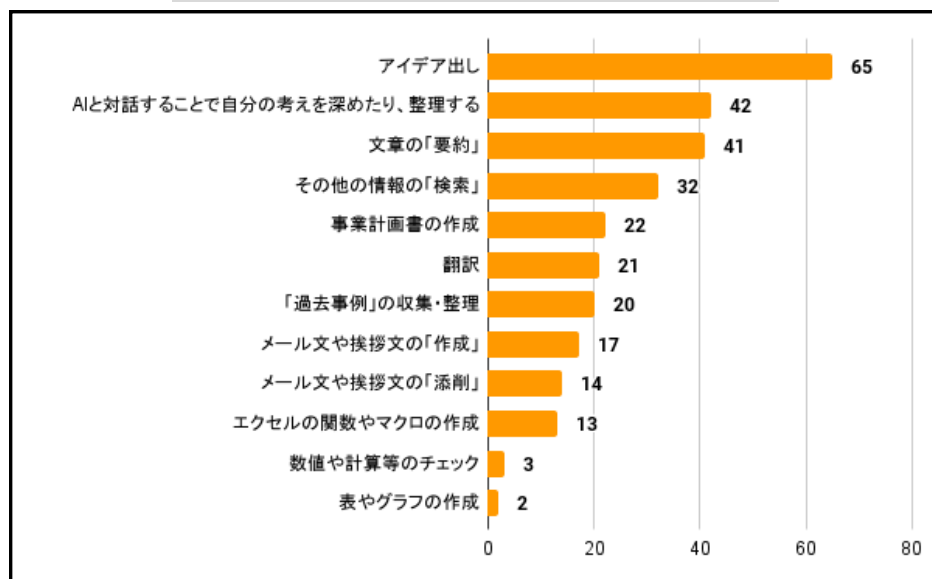
ChatGPT活用の上でセキュリティ懸念は議論の的です。セキュリティを考えると自社クラウド環境でChatGPTを利用することが好ましいが、実践している中小企業診断士はわずかです。理由は、土業であるためそもそも自社クラウド環境を構築しておらず個人での活用に留まっていることが考えられます。また、「わからない」という回答も一定数あることから、セキュリティ上のリスクを技術的にどう克服するかについての理解はまだ十分に進んでないことが伺えます。

生成AIを利用するクラウド環境

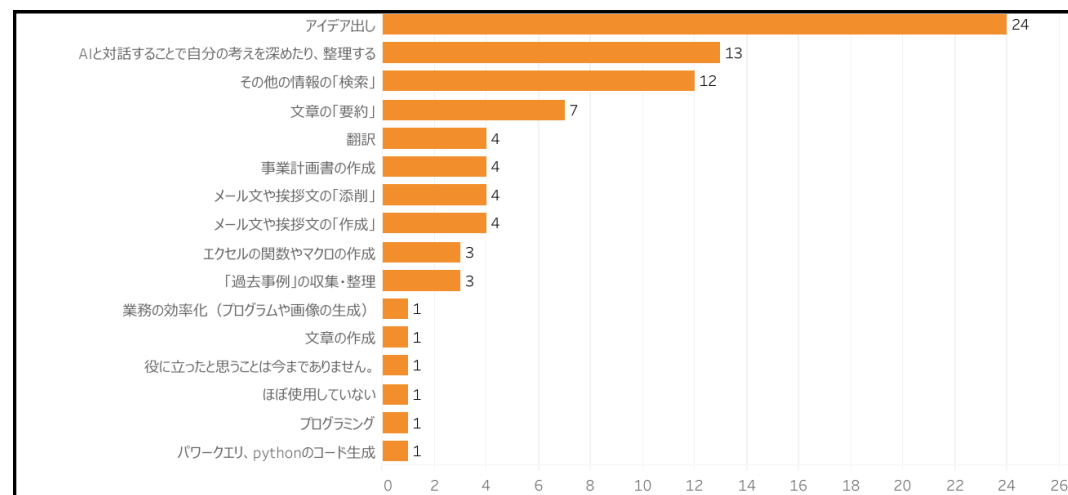
AI使用時にクラウドは利用していない	60
わからない	14
Microsoft Azure（アジュール）	6
GCP（Google Cloud Platform）	3
LINEBotなどにAPI接続して利用している	1

アイデア出しや対話の相手としてChatGPTを活用している中小企業診断士が多いのには納得がいきます。一転、事業計画書の作成にChatGPTを活用する者も一定数いることから、今後はよりその傾向が強くなる可能性を示しています。ChatGPTを直接、クライアントへの付加価値として提供するのではなく、アイデア出しや自らの考えを深めるために活用することによって、いわば間接的に生産性の向上を図っていると考えられます。

生成AIを利用する目的（複数回答）



生成AIを利用する目的（単一回答）



会議・協力関連

- 会議のための日本語書類の英訳
- クライアントの質問に関するChatGPTからの回答を参考にして中身を詰める

マーケティング関連

- マーケティング用チラシの文言
- 展示会出展時の訴求ポイントの検討
- メルマガの魅力的な文章作成

Excel関連

- わからないマクロの書き直し
- エクセル関数でのチラシ作成時の文言生成
- エクセルの関数作成、文字の整理と集計

アイデア出し 思考整理

- 企業理念検討やSaaSのマニュアル検索
- 知らない分野についてのアイデア出し

プログラミング関連

- RやPythonのプログラムコード生成
- プログラムのテンプレート生成
- コードのエラー解決と推測

文書作成・整理関連

- 原稿作成や講義資料の作成
- 文章の校正と校閲
- 文書のたたき台の作成

調査・分析関連

- 新しいクライアントの事業理解のための技術情報収集
- 経営方針や営業方針の思考整理
- 業界動向の調査と多面的な視点へのアプローチ

事業計画書関連

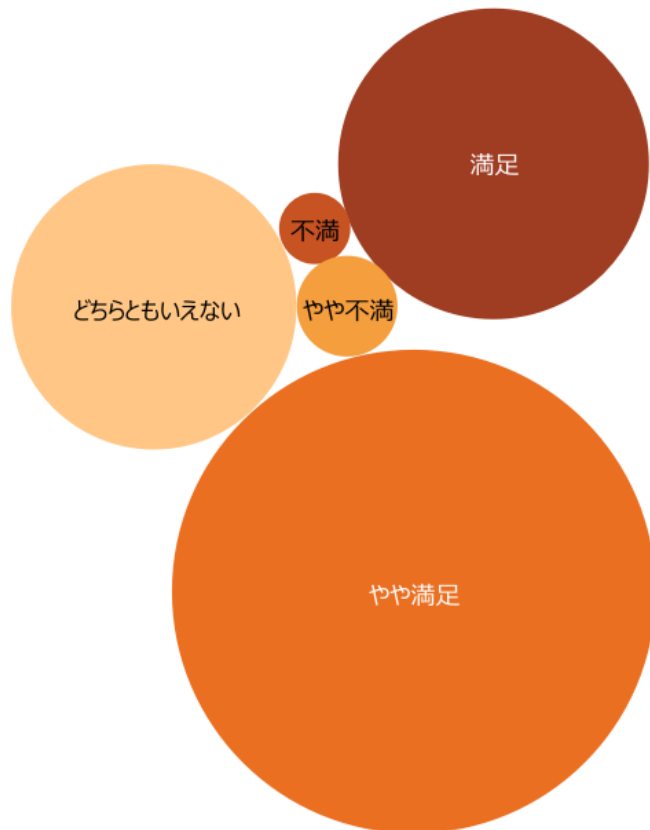
- 補助金採択のための事業計画書の例文作成
- 事業計画書の外部環境動向の調査

語学関連

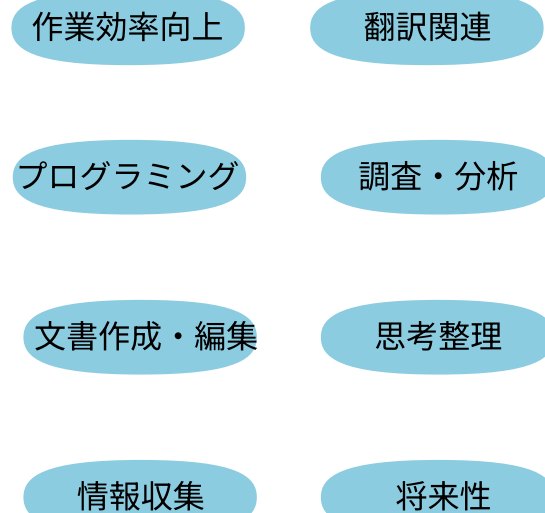
- 英語の契約書を理解するための日本語への翻訳
- 日本語と英語でのニュース記事の要約

今回の調査で回答を求めた中小企業診断士のうち約80%が生成AI（ChatGPT等）に満足していると回答しています。その理由としては、作業効率の向上や思考の整理、情報収集や調査・分析に生成AIを上手く活用できていることが背景にあります。

満足度



満足度の理由



生成AIの課題や改善点

使用体験に関する意見

日本語出力の精度向上希望
セキュリティ上の懸念
他社事例や活用アイデアの希望
利用場面や使い方のアイデア希望

インプット/アウトプットへの要望

プロンプトの使いやすさ向上希望
gpt4の速さとgpt3.5の精度の調整希望
生成された結果の事実関係や論理性に対する懸念
プロンプトのバリエーション拡充希望

利用用途に関する要望

表作成や翻訳などの具体的な用途紹介
特定領域への最適化希望
インプット方法や条件設定の簡略化希望
インプットの仕方やアイデアの指南希望

技術的側面に関する要望

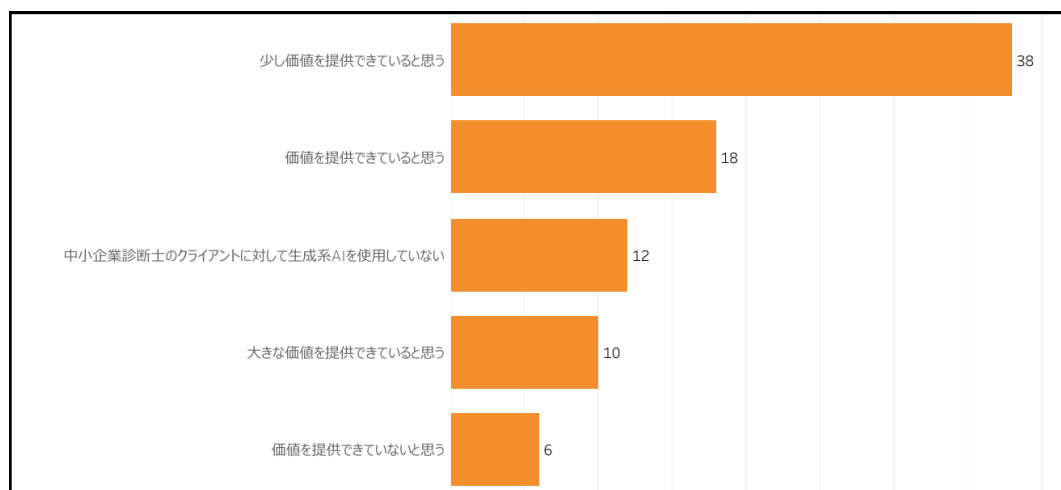
ChatGPTの精度向上や正確性表示
利用場面や使い方のアイデア希望
ChatGPTの進化に期待
ChatGPTのAPIの使いやすさ向上希望

将来への期待と課題

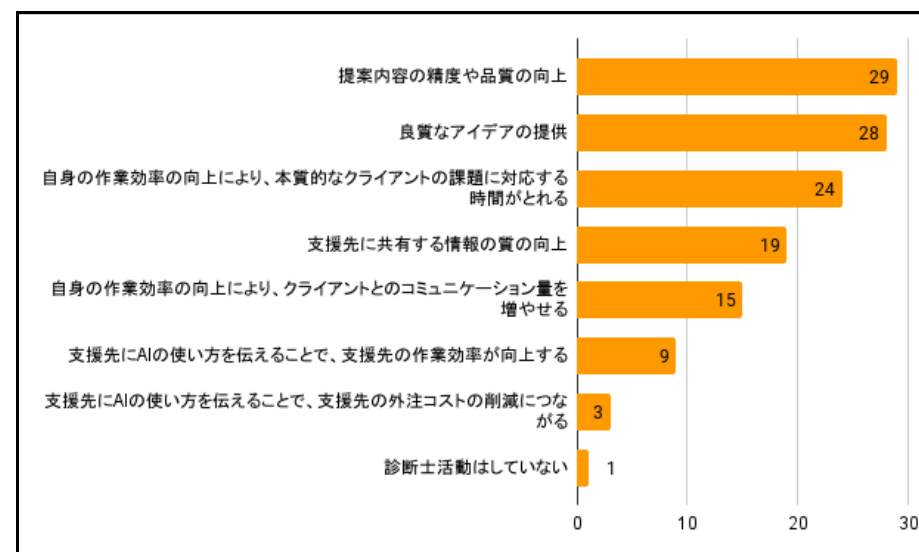
最新情報への対応希望
インターネット全体への適切な制約希望
セキュリティ強化希望
ChatGPTの将来的な改善に期待

今回の調査で回答を求めた中小企業診断士のうち約80%がChatGPTはクライアントに価値を提供できていると答えました。どのような価値を提供しているかという質問に対しては、提案内容の精度や品質の向上、良質なアイデアの提供に続き、自身の作業効率の工場により、本質的なクライアントの課題解決に時間を割けるという回答が見られました。

現在のクライアントへの提供価値



どのような価値を提供しているか



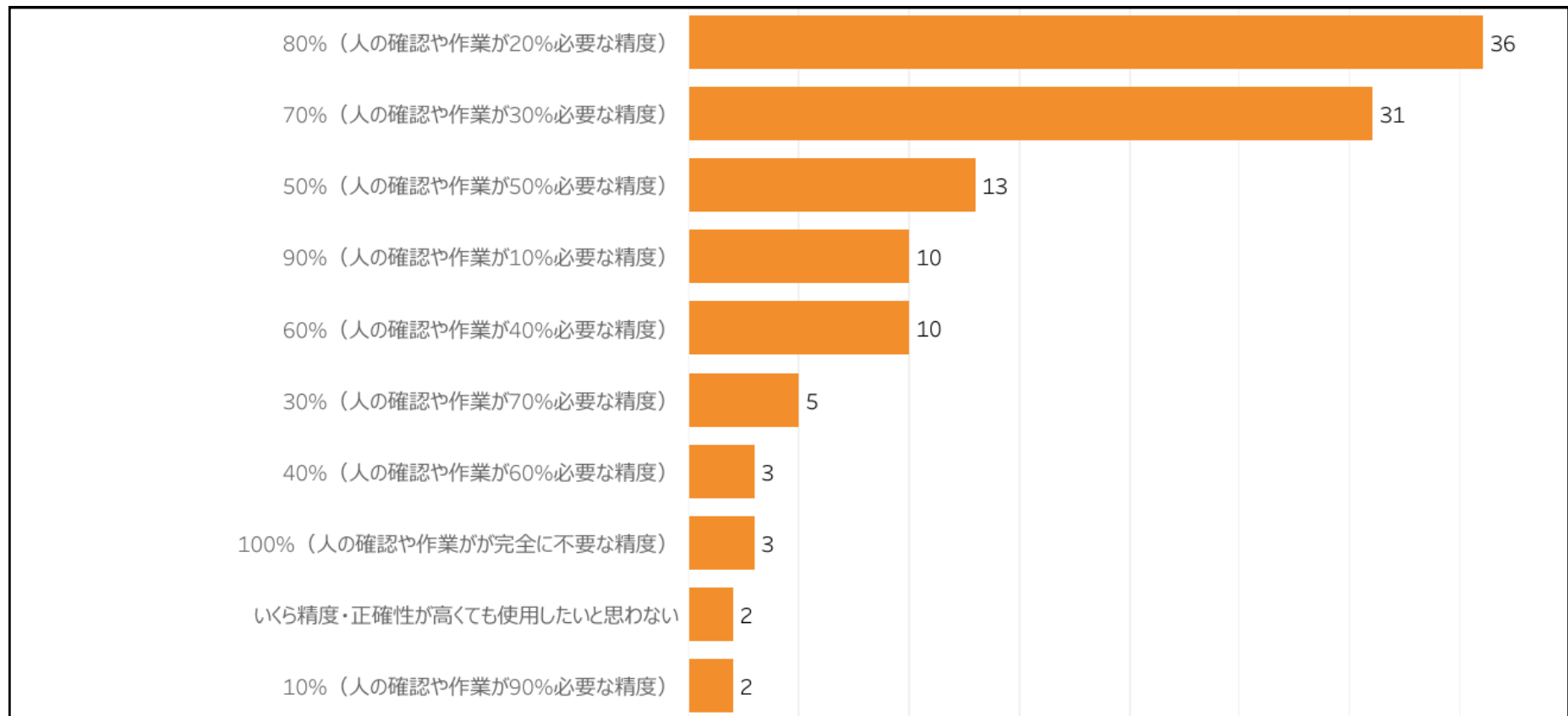
生成AI（ChatGPT等）を仕事で活用しがたい理由として筆頭に挙げられているのが、活用方法がイメージできないや使い方がわからないといった中小企業診断士のリテラシーの不足に関するものです。中小企業診断士が生成AI（ChatGPT等）に対する理解を深めるとともにより生成AIはより仕事で活用されるようになるでしょう。

生成AIを仕事で活用しがたい理由



生成AI（ChatGPT等）にどのくらいの正確さを求めるかという問いに対して、70~80%の精度を求める意見が多数を占めました。あくまでも生成AI（ChatGPT等）は思考の補助をするツールであり人間の作業がなくなるわけではないことを示しています。

生成AIにどのくらいの正確さを求めるか



10年後の生成AI（ChatGPT）は、現在のMicrosoft Officeと同じくらい多くの人が当たり前に使うツールになると予想する中小企業診断士が多数を占めています。生成AI（ChatGPT等）の精度や正確さを高めるためには、適切な指示の出し方を学ぶことよりも実際に試行錯誤して学んでいく方が効率的であるという考えが多数派です。

Q 「現在」の生成AIで精度や正確性を高めるための考え方として、あなたの考えに近いものをお選びください。

A：適切な指示の出し方を学ぶことによって、誰でもすぐに精度の高い結果を出せるようにすることが重要

B：生成AIとのコミュニケーションや、どのような前提を与えるか等、試行錯誤する中で精度の高い結果を出すことが重要

Q 生成AIの「10年後」について、あなたの考えに近いものをお選びください。

A：現在のプログラミングのように、特定の人だけが使っていると思う

B：現在のMicrosoft Office（ワード・エクセルなど）のように、多くの人が当たり前に使うようになっていると思う

